

## 1 病気の概要

ヒブとは、「ヘモフィルスインフルエンザ菌b型」という細菌のことで、一般的なインフルエンザの原因となる「インフルエンザウィルス」とは全く別のものです。

このヒブという細菌が、人から人へ飛沫感染し、鼻やのどに保菌され、これが病原菌となり、肺炎や喉頭蓋炎、敗血症などの重篤な全身性疾患を引き起こします。多くの場合は、生後3か月から5歳になるまでの子どもたちがかかります。特に2歳未満のお子さんに最も多いので、注意が必要です。

## 2 ワクチンの効果

ワクチン接種により、重症なヒブ感染症をほぼ100%予防できると報告されています。

## 3 接種の対象者とスケジュール

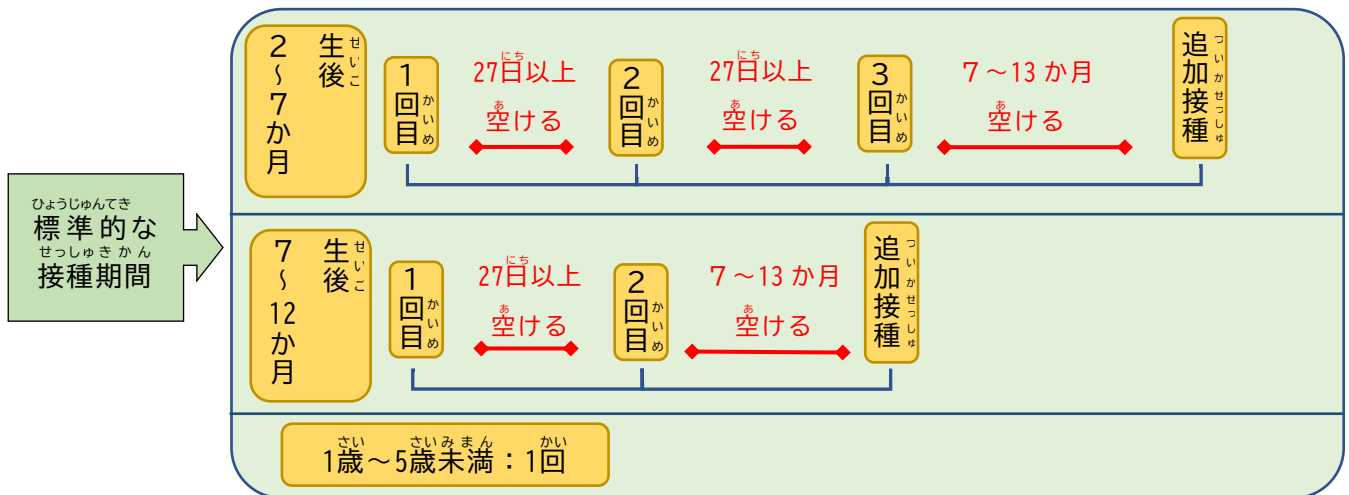
【接種開始が生後2～7か月の場合】合計4回接種

初回接種については27日(医師が必要と認めた場合は20日)以上の間隔を空けて3回。追加接種については3回目の接種から7か月～13か月空けて1回。

【接種開始が生後7か月から12か月の場合】合計3回接種

初回接種については27日(医師が必要と認めた場合は20日)以上の間隔を空けて2回。追加接種については3回目の接種から7か月～13か月空けて1回。

【1歳～5歳未満】1回



## 4 使用するワクチン

わが国で接種されているヒブワクチンは、乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風トキソイド結合体)です。ヒブワクチンについては、単味のヒブワクチンまたは5種混合ワクチンが使用できます。

※5種混合ワクチンを接種する場合は、ヒブ単味のワクチンを接種する必要はありません。

## 5 ワクチンの安全性

ヒブワクチンは、約30年以上にわたり、世界中で使用されている安全性の高いワクチンです。

ヒブワクチンによる全身性の副反応は軽度であり、局所反応として接種した場所の赤み、痛み、はれなどが見られます。それらの多くは24時間以内によくなります。国内でのヒブワクチンが市販された後の副反応の調査でもその高い安全性が確認されています（「日本小児学会ホームページ」から引用）

## 6 接種を受けられない方

以下の方は、接種を受けることができません。

\* ヒブワクチンの成分でアナフィラキシーを起こしたことがある方

また、以下のような場合は接種を受けることができませんので、治ってから受けるようにしてください。

- \* 発熱している。
- \* 重篤な急性疾患にかかっている。

## 7 接種に注意が必要な方

以下の方は、接種にあたって注意が必要なので、あらかじめ医師に相談してください。

- \* 心臓、腎臓、肝臓、血液の病気や発育障害がある方
- \* これまでに、予防接種を受けて2日以内に発熱や全身の発疹などのアレルギー症状があった方
- \* けいれんを起こしたことがある方
- \* 免疫不全と診断されている方や、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- \* ヒブワクチンの成分でアレルギーを起こすおそれのある方

## 8 接種後の注意点

予防接種後はしばらくの間、接種した医療機関において、何も体調に変わりがないことを確認してから帰宅しましょう。まれに接種直後に副反応が起きることがあり、医療機関内にいれはすぐに対応できるからです。

ワクチンを接種した後に、なにか気になる症状があった場合は、まずは接種した医療機関の医師にご相談ください。

## 9 健康被害救済制度

定期の予防接種による副反応のために、医療機関で治療が必要な場合や生活が不自由になった場合（健康被害）は、法律に定められた救済制度（健康被害救済制度）があります。田川市民の方で制度の利用を申し込むときは、田川市保健センターにご相談ください。（制度利用には、一定の条件有り）

（参考）

厚生労働省  
予防接種・  
ワクチン情報



厚生労働省  
予防接種健康  
被害救済制度



田川市  
予防接種の  
案内



福岡県内  
予防接種  
担当課



【問い合わせ先】 予防接種に関するご相談等は、住民票のある市区町村にご連絡下さい。

田川市福祉部保健福祉課保健センター TEL 0947-44-8270

※この説明書は、主に厚生労働省のHPを元として、田川市保健センターが作成しています。  
【裏面もご覧ください】